

1. こどもの高次脳機能障がい啓発チラシ



(こどもの高次脳機能障がいサポートブック)

大阪府

「こどもの高次脳機能障がい」をご存じですか？

高次脳機能障がいとは？

- 病気や交通事故などで脳が傷つくことにより、認知機能が低下し、記憶することや注意・集中すること、段取りをつけること、言葉を理解・表現することに困難が生じるといった症状がでる場合があります。これらの症状は「高次脳機能障がい」と呼ばれています。
- 医療機関に入院している間は、高次脳機能障がいに気づかれない場合もありますが、退院後・復学後に学習面や行動面で困難を感じるによって、明らかになることもあります。症状によっては、高次脳機能障がいであるか判断することが難しく、適切な支援に結びつかないこともあります。
- 脳が傷ついた部位やその程度などによって、症状は多岐にわたります。また、複数の症状が組み合わさっている場合もあります。

＜高次脳機能障がいの主な症状＞

1 覚えられない、思い出せない、忘れてしまう	記憶障がい
2 ぼんやりしている、気が散って集中できない、2つのことに同時に気が配れない	注意障がい
3 段取りをつけにくくなる、優先順位が決められない、困難な状況に対応できない	実行機能障がい
4 相手の気持ちが読めない、感情のコントロールが苦手、意欲が低下する	社会的行動障がい

その他にも、様々な症状があります。

早期に適切な支援等につながるために、何かお困りの場合は、一度ご相談ください。

「ちょっと気になる…」
「どこかに相談してみたい…」
という時には

大阪府内にお住まいの方 (堺市以外)	堺市内にお住まいの方
大阪府障がい者自立相談支援センター ☎ 06-6692-5262 ☎ 06-6692-5340	堺市立健康福祉プラザ 生活リハビリテーションセンター ☎ 072-275-5019 ☎ 072-243-0202

相談窓口

「こどもの高次脳機能障がい」に関する実態

令和8年度に大阪府立総合医療センターが実施した実態調査結果より

Report 01 急性期病院から見た高次脳機能障がい
(小児救急を担当している府内 34 施設が回答)

こどもの高次脳機能障がいの診断

6割程度の施設で診断可能
多くは小児科で行っているが、小児科神経内科のある小児医療センターへ紹介されているケースも。

診断不可能 34%
診断可能 66%

Report 02 学校から見た高次脳機能障がい
(府内政令市の小中及び府内高校 594 校が回答)

5校中1校で
高次脳機能障がいの
児童・生徒はいますか

高次脳機能障がいの
児童・生徒はいますか

1人 2人～4人 5人～9人 10人以上

6校 5校 20校 84校

Report 03 放課後デイ
(府内の放課後等デイサービス 544 施設が回答)

「高次脳機能障がいのある児童・生徒」は
在籍していますか

約15%で在籍している
そのうち約30%で10人以上在籍している

24施設 40施設
6施設 15施設

1人 2人～4人 5人～9人 10人以上

保護者インタビューより

- 退院して復学すると、できないことをリアルに突きつけられた
- 日常生活の困った問題を、高次脳機能障がいの症状として理解しているわけではない
- 発症時は死ぬかもしれないと聞いていたが、そこから戻せる・歩ける状態になって退院したので、時間が経たなくても、元の状態に戻ると感じている

保護者の負担 「生活全般に手伝いが必要」「通学・通院などの外出に同伴が必要」

将来の不安 「本人の理解が不十分」「進路や就労に関する情報が欲しい」

医療に対して 「高次脳機能障がいの検査・診断を受けることで本人の状況が理解できた」「病院からの療養で周囲の理解が深まった」

地方独立行政法人大阪府民病院機構 大阪府立総合医療センターでは、こどもの高次脳機能障がいの支援についてまとめた「こどもの高次脳機能障がいサポートブック」を作成しております。大阪府のホームページにも掲載しておりますので、ぜひご利用ください。
▶ <https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/5405/children-support.pdf>

このチラシは大阪府立総合医療センターが作成した「こどもの高次脳機能障がいサポートブック」をもとに大阪府が作成したものです。
〒540-8570 大阪府中央区南船場2丁目 大阪府福祉障がい福祉推進地域生活支援課 TEL:06-6941-0351 (代表)

令和7年11月版

こどもの高次脳機能障がいサポートブックの内容を踏まえたチラシ（「こどもの高次脳機能障がい」をご存じですか？・A4両面1枚）を作成。

令和7年度の配布先 : 府内43市町村、子ども家庭センター、大阪府立総合医療センター、発達障がい者支援センター

令和8年度の配布予定先 : 小学校、中学校、高等学校、支援学校、放課後等デイサービス事業所等

2. オンラインセミナー

■概要

オンラインセミナー

「こどもの高次脳機能障がいを知ろう！！～ライフステージをこえて支える～」を開催。

日時：令和8年1月26日(月) 14時～16時

対象：医療・福祉・教育関係者

参加者数：約125名

(回復期病院勤務、高齢者施設勤務、就労支援機関勤務、教員など)

講師：温井 めぐみ先生

(大阪市立総合医療センター 小児脳神経・言語療法内科)

内容：

1. 高次脳機能障がい支援に関する大阪府の取り組み
2. これだけは知ってほしい！「こどもの高次脳機能障がい」
3. ケースから考える！「高次脳機能障がいのあるこどもの学校生活での困り事」

周知先：市町村、医師会、地域別実践研修事務局、府 教育振興室、
子ども家庭センター、障がい福祉事業所など

大阪府
こどもの **高次脳機能障がい** を知ろう！！
～ライフステージをこえて支える～

開催日 令和8年 1/26(月)
事前申込制 参加無料

・高次脳機能障がい(こじのうきのうしようかい)とは、病気や事故で脳が傷つくことによって起こる記憶力や集中力の低下など、脳の認知機能がうまく働かなくなる障がいがあります。
・令和6年度に実施した調査からは、支援学校や放課後等デイサービス等に一定程度、高次脳機能障がいのあるこどもが在籍することが分かっています。
・こどもの高次脳機能障がいについて、この機会に一緒に考えてみませんか？
こどもの支援に従事されるみなさまのご参加をお待ちしております！

開催日時：令和8年1月26日(月)14:00～16:00
定員：300名(先着順) 申込期限：令和8年1月9日(金)
対象：医療・福祉・教育関係者等のみなさま
参加費用：無料 ※セミナーの一部は後日、アーカイブ配信予定。

(内容)
1. こどもの高次脳機能障がい支援に関する大阪府の取り組み
2. これだけは知ってほしい！「こどもの高次脳機能障がい」
「こどもの高次脳機能障がい」
3. ケースから考える！
「高次脳機能障がいのあるこどもの学校生活での困り事」

講師
大阪市立総合医療センター 小児脳神経・言語療法内科
温井 めぐみ 先生

【認定資格】
日本小児科学会専門医・指導医、日本小児神経学会専門医
日本てんかん学会専門医・指導医、日本高次脳機能学会臨床神経心理士

<主催・セミナーのお問合せ先>
大阪府 福祉部 障がい福祉室 地域生活支援課
「高次脳機能障がいオンラインセミナー担当」
お問合せ先：tisui@gbox.pref.osaka.lg.jp

申込方法と相談窓口の情報は裏面に記載

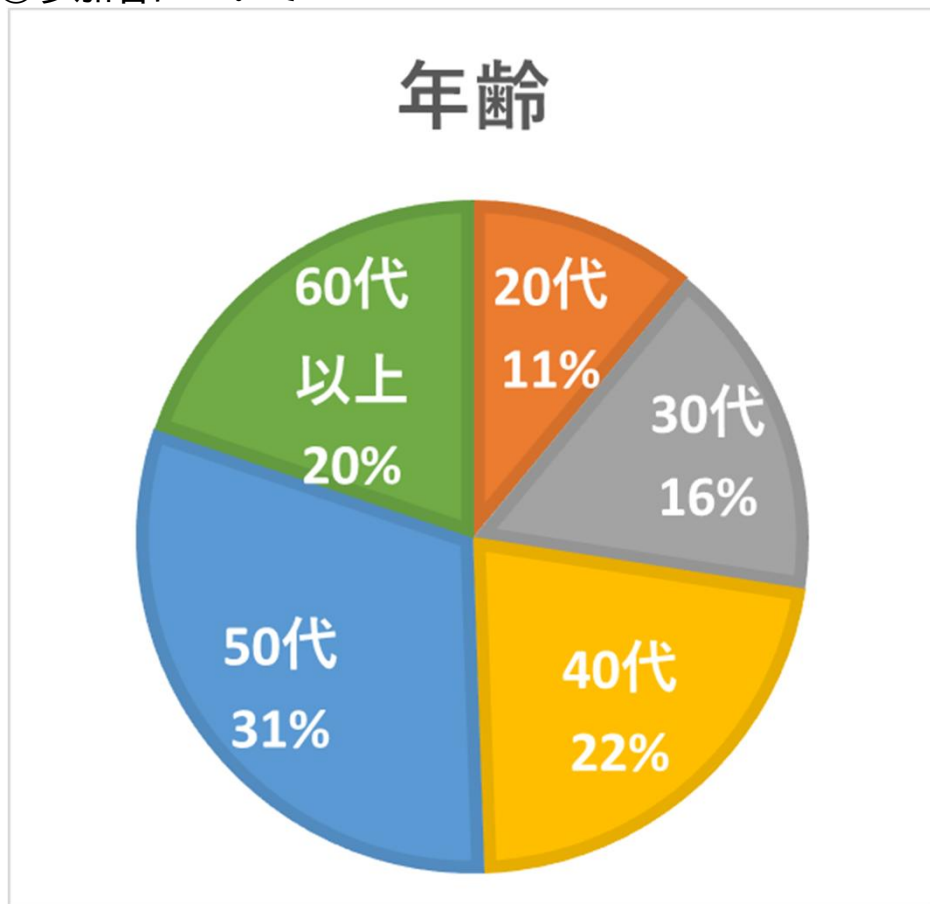
2. オンラインセミナー

■当日参加者アンケート結果

実施期間:1月26日(月)セミナー終了後から2月28日(土)まで

回答者:91名(回答率:約73%)

①参加者について

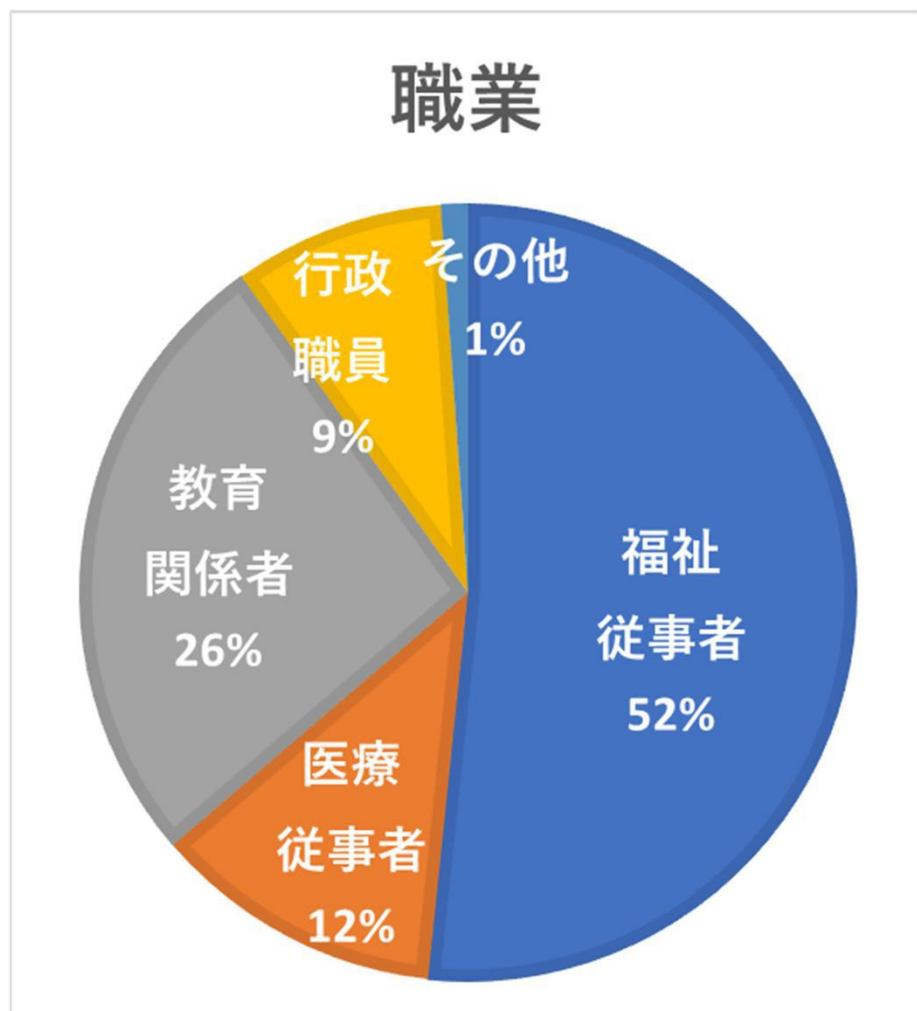


年代	人数	%
10代以下	0人	0%
20代	10人	11%
30代	15人	16%
40代	20人	22%
50代	28人	31%
60代以上	18人	20%
合計	91人	100%

2. オンラインセミナー

■当日参加者アンケート結果

①参加者について



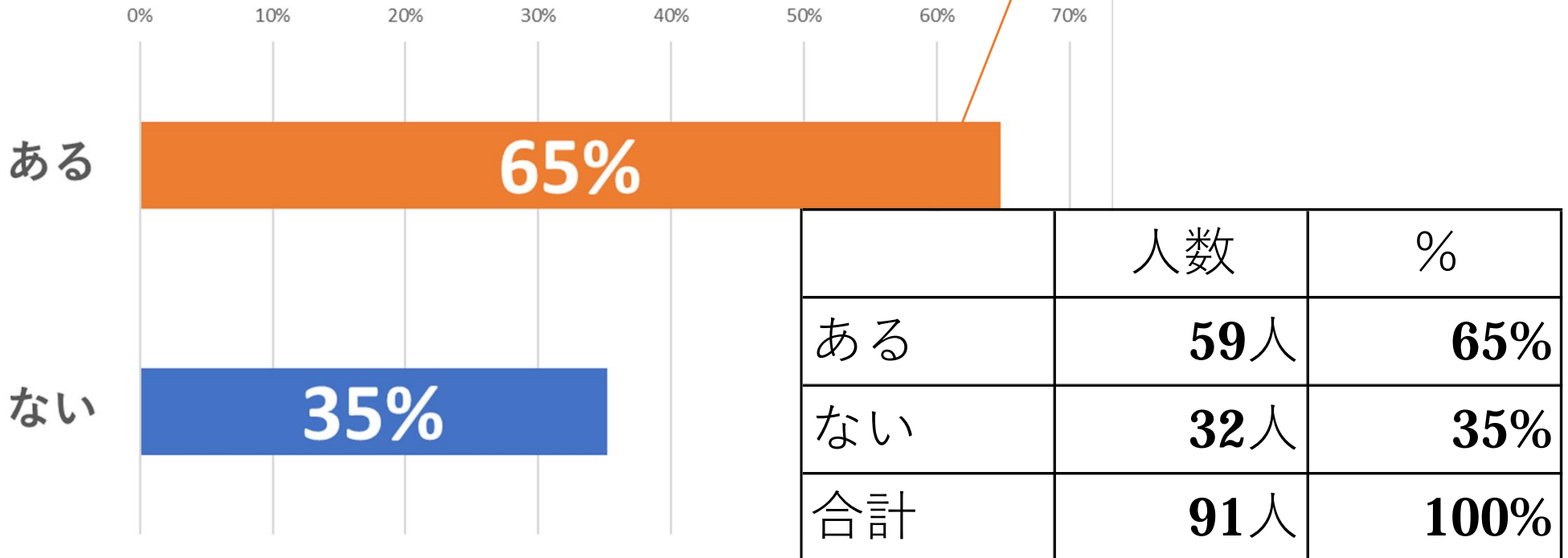
職業	人数	%
福祉従事者	47人	52%
医療従事者	11人	12%
教育関係者	24人	26%
行政職員	8人	9%
その他	1人	1%
合計	91人	100%

2. オンラインセミナー

■当日参加者アンケート結果

①参加者について

高次脳機能障がいの方との 関わりや支援経験



【支援の場】

障がい者施設、自立訓練施設、就労支援機関、放課後デイサービス、高齢者施設、通所介護、病院、保育所、教育機関 など

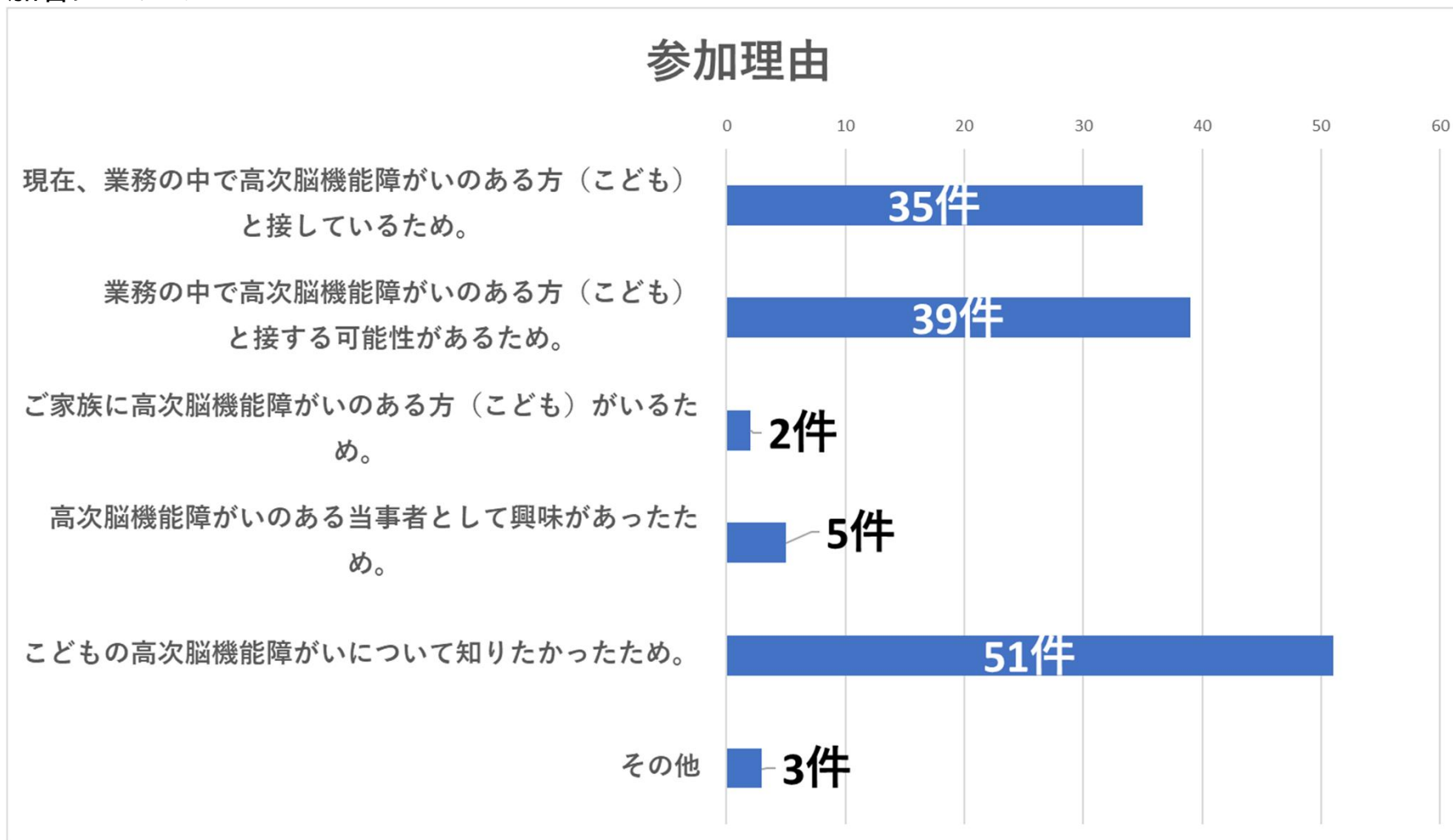
【支援内容】

- ・記憶面や片付け・家事組み立ての支援
- ・リハビリテーション
- ・生活調整
- ・学習や認知面における個別支援
- ・家族との連携や相談 など

2. オンラインセミナー

■当日参加者アンケート結果

①参加者について

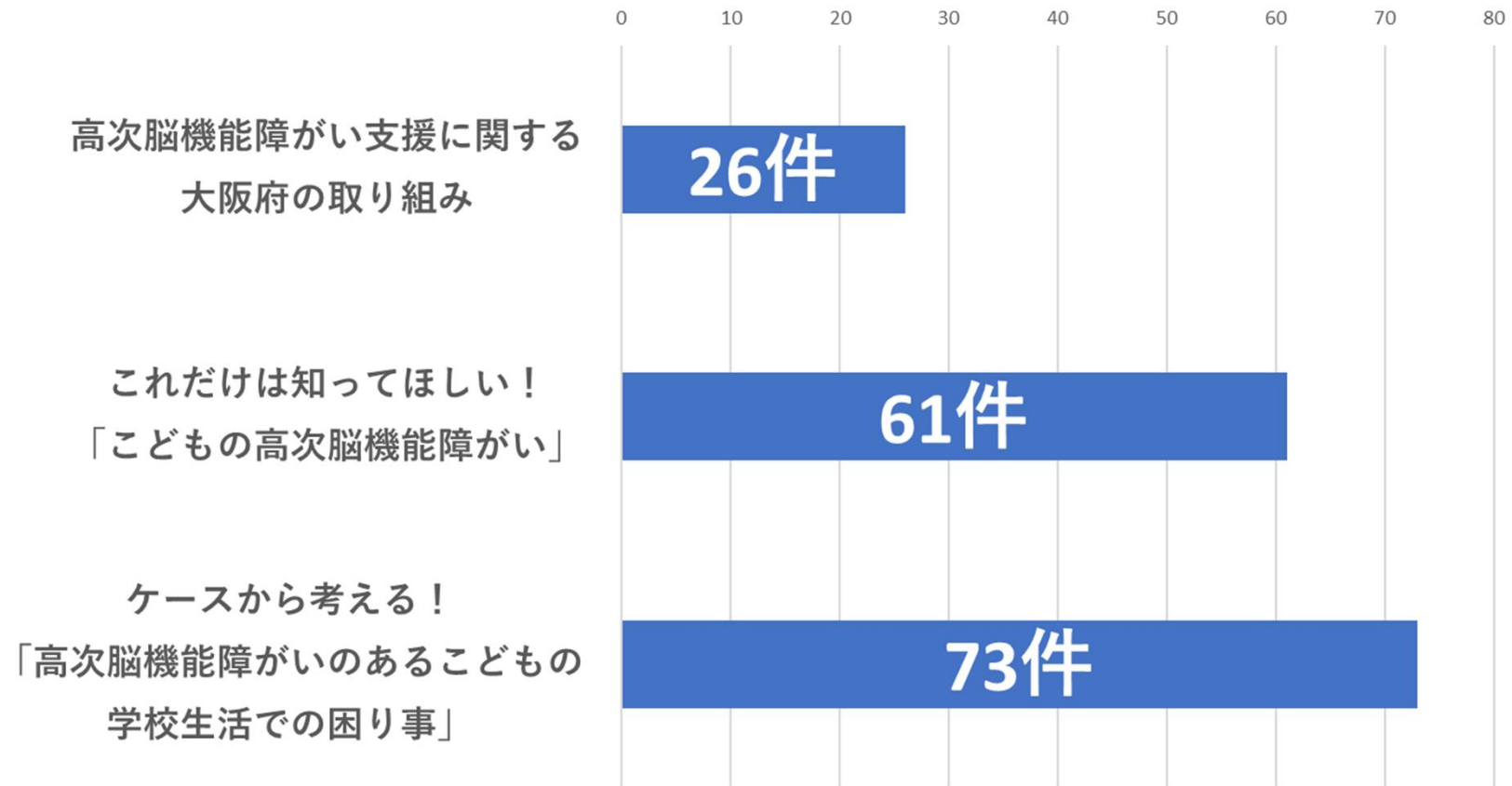


2. オンラインセミナー

■当日参加者アンケート結果

②セミナーについて

印象に残ったプログラム



2. オンラインセミナー

■当日参加者アンケート結果

②セミナーについて

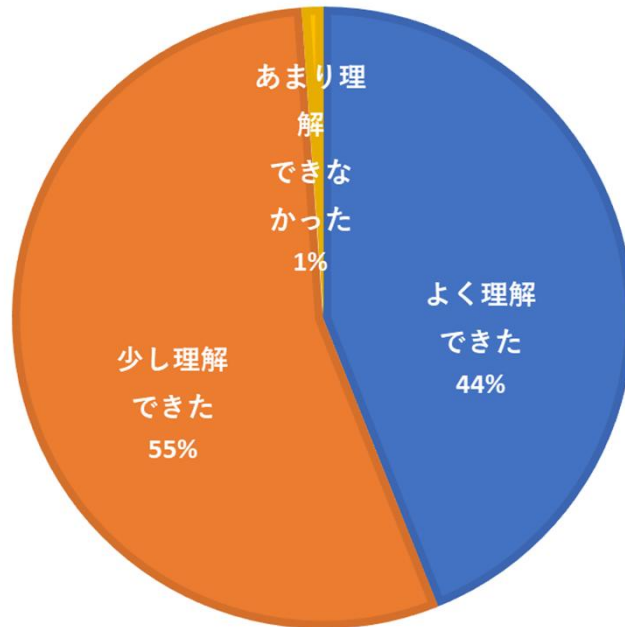
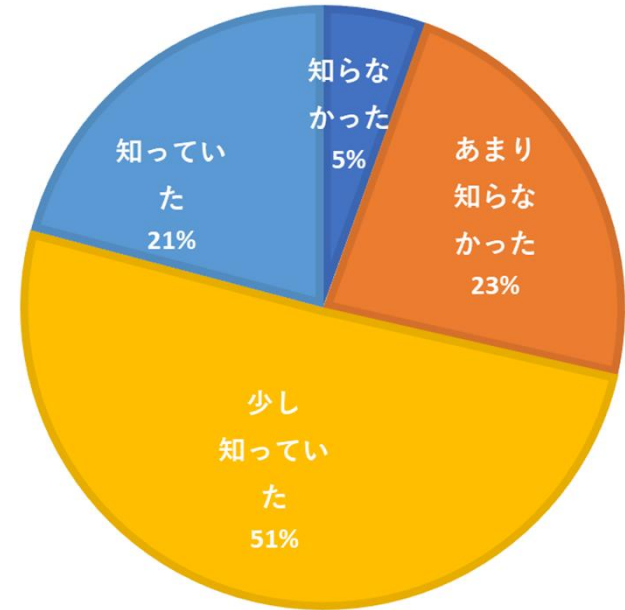
こどもの高次脳機能障がいについて

・受講前の認知度

知らなかった	あまり知らなかった	どちらでもない	少し知っていた	知っていた	合計
5人	21人	0人	46人	19人	91人
5%	23%	0%	51%	21%	100%

・受講後の理解度

よく理解できた	少し理解できた	どちらとも言えない	あまり理解できなかった	全く理解できなかった	合計
40人	50人	0人	1人	0人	91人
44%	55%	0%	1%	0%	100%



2. オンラインセミナー

■当日参加者アンケート結果

③感想など

<50代 福祉従事者>

高次脳機能障がいについての研修はあるが、児童に関連した研修は初めてだった。児童の場合、ライフステージに合わせた支援や学校との連携など、成人とは違うプロセスを経ているので、今回の研修は、とても参考になった。

<30代 医療従事者>

実際に、社会で生活に困っている子や支援者の方達をみてきました。高次脳機能障がいがあるという事で、除外される事もあったり、もっと細かな配慮があれば色々できるのに諦めなければいけない子どもを見てきたので、私自身も支援者として関わり方、情報伝達の方法など知りたかったので、具体的な例を知れて良かったです。

<40代 行政職員>

学校現場では、こどもの状態に応じた具体的な支援と、成長を見通した長期的な計画をもって取り組むことが求められるが、日々の業務の中でそれを継続的に実践することは難しい実情がある。今回のセミナーで示された、高次脳機能障がいは発症直後ではなく、成長や環境の変化に伴って困り感が顕在化するという視点は、行政職員として学校支援を考える上で重要であると感じた。今後は、学校の努力に委ねるのではなく、医療・福祉等の関係機関と連携しながら、評価や支援が途切れないよう、行政として伴走型の支援体制を整えていくことが必要であると考えている。

2. オンラインセミナー

■当日参加者アンケート結果

③感想など

<50代 福祉従事者>

症状は現在関わっているADHDの方やASDの方とよく似ているが、それだけでないご本人の気持ちをいかに捉えるのかを考えさせられました。自分で自分の「出来なさ」「出来ないようになってしまった自分」を理解できるとなると、こちらからの関わり方が全然変わってくると思いました。

<30代 福祉従事者>

今回は貴重なお時間を作っていただき、本当にありがとうございました。実際に関わったことはまだありませんが、1人ひとりのことを支援者がよく知り、支援を行っていくことの大切さを改めて実感しました。支援者が寄り添い、地域への架け橋になって、お子さまが過ごしやすく生活できるよう方法を考える意識をもちたいと思います。ありがとうございました。

<50代 その他>

- ・こどもが当事者なので、温井先生の講義内容全てが参考になりました。また、大阪府の取り組みについてはほとんど知らなかったなので、今年の普及・啓発イベントをチェックしたり、啓発動画を見てみようと思います。
- ・高次脳機能障がいについて、まだまだ世間的に知られていないので、こういうセミナーやイベントを開催していただけるのは当事者の親として本当にありがたいです。

2. オンラインセミナー

■アーカイブ配信 3月10日(火)～5月10日(日)

オンラインセミナーに当日参加できなかった方や、復習をしたい方などのために、一部分をYouTubeにて限定公開。

アーカイブ動画

オンラインセミナー

こどもの高次脳機能障がいを知ろう！！

～ライフステージをこえて支える～



【本日のプログラム】

1. 高次脳機能障がい支援に関する大阪府の取組みについて
2. これだけは知ってほしい！「こどもの高次脳機能障がい」
3. ケースから考える！「高次脳機能障がいのあるこどもの学校生活での困り事」

【講師】

大阪市立総合医療センター 小児脳神経・言語療法内科

温井 めぐみ 先生

【認定資格】

日本小児科学会専門医・指導医、日本小児神経学会専門医
日本てんかん学会専門医・指導医、日本高次脳機能学会臨床神経心理士

<主催>

大阪府障がい福祉室 地域生活支援課
「高次脳機能障がいオンラインセミナー担当」



©2014 大阪府もずやん

3. 子どもの高次脳機能障がい講座・家族交流会

高次脳機能障がいでも困りごとを抱える当事者家族や府内の放課後等デイサービス等の事業所職員が、情報を入手したり、思いや体験談を共有したりすることができる機会を提供するため、家族講座・交流会を開催。

- ・日 時:令和8年3月10日(火) 10時半～12時半
- ・場 所:大阪府立障がい者自立センター 1階 大会議室
- ・講 師:大阪医科薬科大学LDセンター 言語聴覚士
- ・パネラー:スポーツパークりるる(放課後等デイサービス事業所) 管理者兼児童発達管理責任者等
- ・内 容(1)基調講演「高次脳機能障がいのある子どもの生活・学習の支援について」
パネルディスカッション「家庭や福祉事業所での子どもとのかかわり方のポイント」
(2)家族交流会
- ・参加者:7名 (令和6年度参加者数:6名)

4. 今後の展開

- ・ツールを活用した啓発の推進(啓発ツールの配布先:小・中学校、高等学校、支援学校、放課後等デイサービス事業所等)
- ・啓発と併せて今後どのように展開していくか検討